



澆刺颯爽 栄中

～熱意・誠意・鍛錬～

目指す生徒像
礼儀正しく、
本気でやり遂げる生徒
～あははの学校～

令和8年7月1日 第4号 生徒数 1年180名 2年191名 3年165名 計536名

つきつめる力 ～社会力の育成～

校長 滝沢 慎

過日、株式会社オリエンタルランド（東京ディズニーリゾートの運営会社）に、勤めていた方の講演を聞く機会がありました。

その方は、埼玉県内の某高等学校（男子校）で、生徒会長を務めていたそうです。高校は、交通不便な場所にあったため、文化祭への来場者が少ないという課題がありました。来場者を増やしたい、特に女子の。そこで考えたのが、文化祭で、「ジャングルクルーズ」をするというもの。名称使用の許諾を得るために、アメリカにあるディズニー本社に、手紙を送りました。返信は、期待していなかったのですが、きちんとした英語の長文レターが届いたそうです。結果は、「使用不可」。でも、高校生に対して、真摯に向き合う姿勢に、たいへん感動するとともに、人と向き合い、何かをつくりあげる仕事に就きたいという思いを強く抱いたそうです。（文化祭は、様々な工夫で、来場者数は、前年度比、激増しました。）

社会人となり、他社を経て、オリエンタルランドに就職しました。ディズニーでは、否定ではなく、「どうしたら」を大切にしているそうです。よりよいものをつくるために、「つきつめていく」。

ディズニーは、アニメーションを数多く発表しています。声入れに関して、一般的には、絵を先に制作し、画面の表情や口の動きに合わせて、声優がセリフを入れます。ディズニーでは、声優の声を先に録音し、それに合わせて、絵を制作するそうです。

では、日本語吹き替え版は、どうするのか。ただ単に、翻訳した日本語を使うのではなく、英語でつくられた口の動きにあう、セリフを考え抜いて、作り上げるそうです。「アナと雪の女王」の主題歌の場面をビデオで見ましたが、サビの部分、「Let it go」（日本語に訳すと「手放す」「気にしない」）が、日本語の歌詞「ありのままで～」になった場合、口の形が自然であり、見事に合っていました。

「つきつめる」は、何事にも共通する要素です。その為の、大切なものの一つに、「他の人との対話」があります。課題を解決するために、他者の考えを知り、意見を交換し、よりよいものを創造していく。生成AIなら、できそうに思うかもしれませんが、「対話」は、新しい技術が登場し、社会が変化していても、必要となる力です。「社会力」を育てる重要な力なのです。

栄中の皆さんには、学校、家庭だけでなく、地域等、様々な人と対話をしてもらいたいです。

本校のホームページでは、生徒の活動の様子や、学校からのお知らせを配信しています。



ホームページアドレス
www.edu.city.misato.lg.jp/sakaechu/